

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
1	東京農工大学	大学院農学研究科	教授 大川 泰一郎	営農再開地域における先進的なオーガニック作物生産技術の開発	本事業では、福島県浜通りの営農再開地域にある富岡町と連携し、東京農工大学が有する「復興知」を活用し、福島県浜通りの営農再開において、食用、酒米品種、新規園芸作物のIoT, AIを利用したスマートオーガニック作物生産技術を開発し、オリンピックに向けた産地形成を推進し、農業振興、人材育成を目的とする。	富岡町	16,000	継続
2	東日本国際大学	福島復興創世研究所	学長代行 中村 隆行	日本版ハンフォードモデル構築による福島復興創生	東日本国際大学福島復興創世研究所をコーディネーターとして、福島県いわき市・双葉地方8町村が米国ハンフォードの主要機関（TRIDEC、ワシントン州立大学、コロンビアベイソン短期大学、パシフィックノースウェスト国立研究所等）と連携し、ハンフォードをモデルとして廃炉の促進と産業の振興等に寄与する事業。	いわき市、広野町、楡葉町、川内村、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村	7,000	新規
3	東京大学	アイトープ総合センター・研究開発部	教授 秋光 信佳	楡葉町を起点とした「復興知」の展開	2018年度は本事業の採択事業として①イノベーション人材の裾野拡大を目指した教育プログラム事業、②イノベーション・コースト構想の実現に向けた研究事業、③風評被害の払拭と農林水産業の復興のための事業、を実施した。今年度は体制を強化して、これらの事業を有機的に展開する。	楡葉町	20,000	継続
4	東京大学	農学部・農学生命科学研究科	教授 溝口 勝	飯舘村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム	飯舘村の農業復興には放射能汚染というハンデにめげずに新しい農業の創設にチャレンジする若者を育成することが必要である。学生を飯舘村現地に連れて行くことで「現場を見ることの重要性」を実感させる教育研究活動を展開し、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考える機会を設ける。	飯舘村	16,000	継続

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
5	東京大学	先端科学技術 研究センター・産学連携 新エネルギー研究施設	特任准教授 飯田 誠	CENTER for Wind Energy (Phase-II)	いわき市での風力産業化に向け、これまで東大先端研が培ってきた研究・人材育成の知見を活用し①即戦力人材となる現役世代（地元企業）の育成支援、②将来を担う人材育成として関係高等教育機関と連携した風力業界との教育交流事業を実施する。現在と将来に渡る中長期的な実践型風力関連産業人材育成を進める事業である。	いわき市	11,000	継続
6	大阪大学	核物理研究センター・放射線科学基盤機構	センター長 中野 貴志	飯舘村環境放射線研修会	福島県飯舘村において、環境放射線と関連する自然科学的・人文社会学的な研修を行う。放射線に関する偏りのない幅広い科学的知識を得ると共に、その実態を正しく理解する機会を与え、社会リスク、心理等の多面的な議論を行う。研修を経た参加学生の中から将来福島復興に大きく関与していく人材が生まれることも期待する。	飯舘村	8,000	継続
7	福島工業高等 専門学校	化学・バイオ 工学科	教授 内田 修司	広野町における未利用資源の 探索と資源化 みかんプロ ジェクト	広野町で未利用資源の探索と資源化に取り組む。放課後理科教室で微生物の知識を学んだ小学生に培養や単離に挑戦してもらいながら、みかん、新たに生産が始まるバナナとパパイヤから有用微生物の探索を行う。農産廃棄物の資源化は、地域の持続可能性を高めるよう物質循環のモデルを構築する。	広野町	12,000	継続

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
8	福島工業高等専門学校	機械システム工学科	准教授 鈴木 茂和	廃炉ロボット技術のドローン農業応用に係る研究および教育	本校が実施している廃炉ロボットの研究と教育をベースとして、近年普及目覚ましいドローンを農業に応用するため、檜葉町、大熊町、いわき市と連携して、効果的な操作訓練方法、小規模農場を前提とした安全性の向上、動画の画像処理による発育状況の定量化、トマト収穫ロボット概念設計などの研究・教育を行う。	いわき市、 檜葉町、大熊町	12,000	新規
9	郡山女子大学	家政学部食物栄養学科	主任 紺野 信弘	葛尾村におけるエゴマ産業の拡大と地域活性化	本事業は、葛尾村におけるエゴマ産業の拡大と地域活性化を2つの柱から達成することを目的とする。2つの柱とは、1.高品質エゴマの商品価値を高める取り組み、2.葛尾ブランドのエゴマ商品の販売促進のための取り組み	葛尾村	9,000	新規
10	近畿大学	社会連携推進センター	センター長 伊藤 哲夫	“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト	14学部48学科を擁する総合大学として、総力を挙げて川俣町早期復興を支援するために2012年に立ち上げたプロジェクト。再生・復興支援を2本の柱とし、一つの復興モデルとして浜通り市町村等に誘導・集積する。本事業では川俣町を主として、本学が有する福島復興に資する「知」を活用し、各種の教育・研究活動を展開する。	川俣町	10,000	継続
11	弘前大学	被ばく医療総合研究所・大学院保健学研究科	所長 床次 眞司	浪江町をフィールドとした放射線研究・教育プログラム	弘前大学浪江町復興支援WGが中心となり、弘前大学浪江町復興支援室とともに浪江町をフィールドとした事業を展開する。 看護や放射線技術を専攻する学生に対する教育プログラムの立ち上げ、さらに、帰還後の住民や町職員の生活環境の改善・回復及び健康管理を目的とした調査研究や教育プログラムの開発と実践を行う。	浪江町	18,000	継続

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
12	日本大学	工学部・大学院工学研究科	教授 岩城 一郎	住民と学生の協働による「ロハスビレッジかつらお」復興まちづくり	日本大学工学部と葛尾村との協定に従い、本学が掲げる「ロハス工学」に基づき、住民と学生との協働による健全で持続可能なまちづくりを目指す。その内容は①交流の場と社会インフラ、②グリーンインフラ、③ドローン技術からなり、これらの技術を統合した3Dマップと教育プログラムの構築、およびこれらの利活用を図る。	葛尾村	15,000	継続
13	東京大学	大学院新領域創成科学研究科	研究科長 大崎 博之	「環境エネルギーまちづくり」を通じた地域社会イノベーション	福島県新地町において、地域エネルギーシステムの将来ビジョン構築、社会動態分析とニーズ把握に基づく定住環境検討、それらを統合した共創型地域マネジメントを、公・民・学連携のまちづくり拠点「アーバンデザインセンター新地」を設立して実践する。これにより、「環境エネルギーまちづくり」のモデルを形成する。	新地町	20,000	継続
14	東北大学	大学院農学研究科・東北復興農学センター	研究科長 牧野 周	東北大学の復興知を活かす葛尾村の創造的復興	2016年の全村避難解除の日から葛尾村の復興に関わってきた東北大学大学院農学研究科・東北復興農学センターが、東北大学の復興知を強化しつつ実施する、葛尾村の復興と地域課題の解決策の模索活動。課題先進地としての葛尾村の復興は、県内の地域復興のみならず広く世界中の地域課題解決策として提示しうるものと期待できる。	葛尾村	11,000	継続

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
15	東京農業大学	総合研究所	所長 山本 祐司	福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けて～	東京農業大学が有する産学官連携のネットワークを最大限に活用したコンソーシアムを形成し、浪江町の農業“新興”のコンセプトのもとで新規就農、六次産業化推進、スマート農業を含めた取り組みを未来の担い手人材候補として学生による現地での活動を中心に大学の“復興知”を活かして実施する。	浪江町	18,000	継続
16	東京農業大学	国際食料情報学部・国際バイオビジネス学科	教授 渋谷 往男	東京農大福島イノベーション・コースト研究プロジェクト ～大学の専門的知見をフル活用した浜通り地方の復興から地域創生へのシームレスな支援モデル構築	<ul style="list-style-type: none"> ・放射性物質汚染などからの環境回復のためのきめ細かい技術支援による安心の創出 ・浜通り地方の自立的発展のための内発的産業振興とそれを担う経営感覚のある人材の育成 ・こうしたTechnologyとManagementを融合させた農業系総合大学ならではの継続的な支援 	相馬市	14,000	新規
17	慶應義塾大学	SFC研究所・ドローン社会共創コンソーシアム	総合政策学部 教授 古谷 知之	ドローン人材育成から始まる地域産業の活性化～たむらモデルの高度化・普及事業～	ドローン前提社会には人材育成と産業振興が必要である。弊塾と田村市は包括的連携協定を締結し、その課題に取り組んできた。県立船引高校やドロコンたむらの活動を通じ、ドローン人材が産業振興に貢献してきた。このドローン人材育成から始まる産業振興スキームを「たむらモデル」と名付け、その高度化と普及を推進する。	田村市	10,000	継続

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
18	東北大学	未来科学技術 共同研究セン ター	センター長 長谷川 史彦	モビリティ・イノベーション 社会実装・産業創生国際拠点 の構築	モビリティ・イノベーション連携会議に参画する大学・研究機関メンバーを中核に、産学共創 による拠点を構築し、次世代モビリティ（自動運転、EV、コネクテッドモビリティ、新サービ ス（いわゆるCASE））の社会実装と新産業創出・人材育成およびそれらによる国際連携を推 進する。	南相馬市、 浪江町	14,000	新規
19	東京大学	工学系研究 科・航空宇宙 工学専攻	教授 土屋 武司	ドローン産業振興及び人材育 成プロジェクト	東京大学が有するドローンに関する「知」を、福島復興に資する「知」（復興知）の一部とし て、南相馬市に誘導・集積する。東京大学の学生を率いて、小中学校、高等学校の児童・生徒 に対して工学教育を行う。また、ドローンの最先端研究を現地企業、他大学、研究機関ととも に実施して、人材育成、産業振興を実践する。	南相馬市	11,000	継続
20	長崎大学	原爆後障害医 療研究所・国 際保健医療福 祉学研究分野	教授 高村 昇	富岡町におけるイノシシ中の 放射性物質濃度評価	本事業の目的は、富岡町で捕獲したイノシシ中の放射性物質濃度を測定することによって、環 境への放射能影響及び、イノシシを食した際の内部被ばく線量の評価を行うことである。また 得られた結果をもとにして、住民、行政、地元企業や専門家と共にイノシシによる被害管理・ 利活用に関する検討会を開催することである。	富岡町	6,000	新規

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
21	早稲田大学	環境総合研究センター	教授 松岡 俊二	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター事業	本事業は、地域社会の抱える持続性課題が研究対象であり、その解決を通じて地域に貢献することを目指している。多世代かつ多様なアクターの参画による「ふくしま学（楽）会」という知識創造の場を形成し、福島復興の具体的な提案づくりから実践まで行う体制を構築する社会イノベーションの創造に取り組むことに特徴がある。	広野町	19,000	継続
22	京都大学	医学部人間健康科学科・医学研究科人間健康科学系専攻	教授 天谷 真奈美	県内外で避難生活を継続する大熊町町民の心の健康イノベーション	県内外で長期避難生活を送る町民の精神的健康課題の解消に向け、精神保健活動のイノベーションを大熊町役場健康介護課職員と連携して行う。①現行の精神保健活動をイノベーションするためのアクションリサーチ、②町民の精神的健康実態調査、③災害時心のケアに関する共通性と日本の独自性を見出す国際セミナーを実施する。	大熊町	8,000	継続
23	会津大学	先端情報科学研究センター・ロボット情報工学クラスター	教授 成瀬 継太郎	浜通りロボット人材育成事業－RTF活用とWRS参加に向けて－	ロボットテストフィールド（RTF）の所在市町村であり、ロボット産業の育成に力を入れている南相馬市において、ロボットに関連するICT技術を持った人材を育成するとともに、ワールドロボットサミット（WRS）に向けて、浜通りの産学連携・ロボット技術共有・実習の自主的推進の体制づくりを支援する。	南相馬市	13,000	継続

2019年度学術研究活動支援事業（大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業）採択結果一覧（申請受付順）

（単位：千円）

番号	大学等名	学部・研究科等名	事業責任者名	事業名	事業のポイント	連携市町村 (予定も含む)	補助金 内示額	継続又 は新規
24	東京工業大学	科学技術創成 研究院・先導 原子力研究所	准教授 木倉 宏成	リスク・コミュニケーション 工学を活用した復興学による 浪江町創成Ⅱ～イノベーション・ コースト構想の実現に向けて～	福島復興へ向け、リスク・コミュニケーション工学、除染科学、ロボット計測工学を融合し「復興学」という新しい学問領域を構築し、大学等の研究者ネットワークを活用して知の実践・集積を図り、大学院生実習や小中学校理科・ロボット・文化教室支援等を通して人材育成を行い、地域企業・自治体等と協力し産業振興に資する。	浪江町	13,000	継続
25	福島大学	農学系教育研 究組織設置準 備室	教授 新田 洋司	福島県浜通り産米の「食と農 の特性」の明確化と地域・食 育振興	震災・原発事故後、福島県・浜通り産米の価格やブランド力の低下、不安定な除染水田産米収量や低調な品質・食味を改善する。地域産米の貯蔵物質の蓄積構造、品質・食味、機能性成分等を明らかにし栽培技術に反映させる。成果は小・中・高校等にも提供し、米生産、品質・食味の重要性や食生活確保の大切さなどを教授する。	南相馬市、広 野町、楡葉 町、富岡町、 川内村、大熊 町、双葉町、 浪江町、葛尾 村、飯舘村	9,000	継続

320,000